

## エンジョイをありがとう

学校長 日暮 勤

夏休みが終わり、学校には、また子どもたちの元気な「おはようございます!」の声が戻ってきました。

この7月には、4年ぶりの地域町内会のお神輿や盆踊りなど、子どもが地域の方々と触れ合う姿がたくさん見られました。

六浦東の盆踊りでは6年生が町内会の方々からの熱い要望に応え、スポーツフェスティバルで踊ったソーラン節を披露しました。ステージの上でどのように決めのポーズを作るかなど、子どもたちがアイデアを出し合いながら作る演技は、そのはつらつとした笑顔とともに、盆踊りのスタートを盛り上げました。

この踊りで終わることなく「ビューティフルサンデー」を何回もステージ上で楽しそうに声を張り上げ踊る6年生の姿を見た運営の方々からは「子どもたちがこんなに盛り上がり踊る姿が見られて良かったです。ありがとうございました。」と感謝の言葉をいただきました。私も校長として「私の方こそありがとうございました。」と伝えることができました。



今年の夏の甲子園で行われた高校野球では神奈川県代表の慶應義塾高校が優勝しました。私は107年ぶりの優勝のことよりも、選手達がどんな時も笑顔で野球を楽しみながら勝ち進んでいった姿が印象的でした。

慶応の野球には選手との距離感が近い森林監督が掲げる「エンジョイベースボール」の精神が浸透しています。この「エンジョイ」はただ野球を楽しもうというのではなく、選手が自分自身で考え判断し、より高いレベルでの野球を「エンジョイ」しようという意味だそうです。私は、チームが一丸となって笑顔で力を出し切る「エンジョイベースボール」の実現がこの優勝につながったのだと思いました。

さらにこの「エンジョイ」する選手の意識を支えたのは、選手間で感謝の言葉を掛け合って気持ちをつなげる「ありがとう野球」です。先輩達が大切に育ててきたこの精神に憧れ、先頭に立って実践し、この意識をこのチームに定着させたのが大村主将でした。優勝後、森林監督から「大村じゃないと優勝できていない。おめでとう。ありがとう。」と抱擁でねぎらわれたエピソードがありました。「ありがとう。」という言葉がこのチーム、監督、選手ら全てに温かく浸透してコミュニケーション力とお互いの理解をつくってきました。「ありがとう」が高いレベルで「エンジョイ」する部活動をつくる原動力になっていったのではないかと思います。

今年の大会は「常識をかえる大会」と言われました。そして、この大会は私の常識や当たり前をふり返る機会になりました。学校の中の常識、教師の中の常識、大人の常識の中にある子どもの生きづらさを多くの人の出会いと経験から見直し、子どもたちが自分の考えで進むことができる力を育み、「ありがとう」と笑顔で感謝し合っ、共に学び続ける学校、共に生きる社会にしていきたいと考えました。

言葉でいうのは簡単ですが、常識を問い直す実践はとても難しいと思っています。まずはこの夏、私に気づきと感動をくれた「ありがとう」という言葉から、私自身が感謝の気持ちをたくさん伝えていきたいと思います。子どもが自分を「エンジョイ」しながら笑顔で表現できるように、子どもたちや職員の間で感謝の気持ち「ありがとう」をたくさん伝え合いながら、つながる学校をめざしていきたいと思っています。

これからも保護者、地域の皆様に、瀬ヶ崎小の子どもたちや私達職員から、「ありがとう」をたくさん伝えたいと思います。今後も学校教育活動、子どもたちへの温かなご支援をよろしくお願いいたします。